

146名が新たに 成人の仲間入り

1月13日(日)、町民文化センター大ホールにおいて成人式を挙
行しました。町では、146名(男82名、女64名)が新たに成人の仲
間入りをしました。式典では、町長や来賓の方々からのお祝いのこ
とば、今年の成人者代表からなる運営委員会で検討された記念品の
贈呈、意見発表などが行われました。会場は終始和やかな雰囲気
に包まれ、成人としての自覚をもった日となりました。

【問合せ】教育課生涯学習係 ☎83-7023



「成人式を迎えて」

武井 まどかさん

二十歳といえば、“責任”という
言葉が浮かびます。そこには未成年だ
から許されることや、学校から守られ
ることがありません。中高生の頃の私
たちからすれば「自由になれていいな
あ」と思っていたことでしょうか。しか
し、自由になれた分だけ自分で負う責
任も増え、これまでのように、突っ走
ることが許されなくなっただんなあと
漠然と思いました。そこで、過去を振

り振り返りながらこの先のことを改めて考えてみました。
今日までの二十年間、普段は忘れていたことが殆どですが、記憶というものは辿っ
ていくと意外と蘇るもので、年月の濃さを感じます。高校に入学した日の緊張感、
アルバイトをして初めて自分でお金を稼いだこと。中学校に入学して先輩後輩の上
下関係に戸惑い、周囲や自分の心身の変化に違和感を覚えたこと。小学校高学年で
は、服装を気にするようになり、好きな音楽やミュージシャンのことを覚えたこ
と、クラスで問題が起きればみんなで話し合い、自分の考えを持てるようになった
こと。小学校低学年では、習った“スーホの白い馬”、覚えてたの少し難しい言
葉をみんなで得意気に使い合ったこと。幼稚園の劇で主人公が自分以外にもたくさ
んいて不満に思ったこと、強面だけども優しいバスケットボール選手のことで、
折り紙やでんぶんのりの匂いやベタベタした感じ。挙げたらキリがないほど記憶が
溢れてきます。自分はあの時、何にお腹を抱えて笑い、何が悔しくて泣き、何を好
きで何が嫌いだったのか。そして、何に憧れ、何になりたかったのか。
人は、わずか三、四歳から自身の夢を抱き始めます。“大きくなったら何にな
る？将来の夢は？”と言っていた当時の自分“は、大きくなり、将来は…の年齢
をこれから迎える現在の自分”を見たら、何を思うでしょうか。どんな目で見る
でしょうか。きっと、“なんだ、思ったより子どもだね。もっと頑張つてよ”と言
うでしょう。もしかしたら、もっと辛口なことを言われるかもしれませぬ。そんな
私にならないよう、十数年前の自分の期待に応えら
れるよう、今日、もう一度自分自身と話し合い、目
標を確認したいと思います。
最後に、本日、成人を迎えるにあたり、両親を始め、周囲の皆さまには心から感謝しています。私達
は成人の仲間入りをしますが、やっと歩けるようにな
り何でも自分でしようとする赤ちゃんと同じです。
まだまだ自分を支えてほしい、自分を大人と認
めてほしいと相反する二つの想いを抱え、もがいて
います。周囲の大人の方々から見たら、まだまだ手
のかかる子どもですが、これから生まれてくる子ど
もたちに希望を与え、自分もまた希望をもって未来
を切り開いていける大人になれるように、これから
もそんな私たちを温かい目で見守ってください。



「大人としての第一歩」

甲斐 大貴さん



はじめに、成人となる今日まで私達を育て、導いてくれた家族、先生
方、すべての方々に深く感謝します。私達には社会に出る長い準備期間を
終え、今、新世界へのスタートを切ったところですが、自分の為す行動の
選択肢が増える一方、社会的責任を負う立場ともなります。そこで、“成
人”とはどのような存在であるべきかという問に対して、私は“成人と
は自分の行動に自覚を持つ人間”であると定義します。
では、どのようにすれば“自覚を持った人間”となりうるのか、その
考えうる答えの一つとして、“社会情勢に関心を持つ”ということが挙げ
られると思います。今までは、私たちが関心を持たずとも周囲が日本を動
かしてききましたが、これからは私たちが日本を創り上げていく時代です。

ありきたりのことのようにも思われますが、社会人として当然求められることの一つです。社会のあらゆる事象に目
を向け、それに対して個々の意見を持たず、必然的にそれが行動にも現れるはずですが、周囲の考えや行い
に自分が流されることなく、確固とした自覚を持ちながら責任ある行動をとることができると考えています。
例えば、社会情勢の一つとしてグローバル化、国際化を見てみると、私たちの先に広がるこの国際化の時代
において、私たちは日本だけでなく世界のあらゆるできごとに関心を持ち、視野を拡げると同時に知識を深めて、国際
人として成長する必要があると感じています。それは、まず自国を正しく理解している人間であって、さらに国際的
な人間こそがこれからの社会からの需要が高い人材であることと確信しているからです。今ここで世界に目を向けてみ
ると、深刻な問題が世界各国で継起しています。中でも貧困格差について、日本では諸外国に比べ富裕な国でもあり、
なかなか考える機会はありませんが、実際に一歩外に出てみると、その先々の国で生活格差の問題について非常に考え
させられます。先日訪れたフランスの首都パリでは、近頃経済力がますます強まっているにもかかわらず、華やかな街
並みの片すみで、物乞いをする多くの人々を目にしました。その中には子供も何人かいて、通行人や停車している運転
手にお金や食べ物を恵んでもらっていました。また、東南アジアのマレーシアでの滞在期間には、日常のあらゆる場
面で、日本とは比べ物にならないほどの非常に大きな上流層と下流層の生活格差というものを感しました。これらが示す
ように、私たちが抱えている固定観念は往々にして真実を映しているとは言えません。自分自身の目で、現実の社会を
確かめることによつて世界事情を主観的に、正の部分だけでなく負の部分をも感じることができたその一方、客観的に
日本を見つめなおす絶好の機会ともなり、自分の国を理解することの大切さを痛感しています。日本という国を深く見
つめ、同時に世界にも目を向けることで、国際社会に貢献できる人間に成長していきたいと思えます。
最後に、これから成人としての長い人生を送っていく仲間たちに、生きて行く上での一つの指標として、福沢諭吉が
残した心訓を一つ紹介します。

心訓

- ・世の中で一番楽しく、立派なことは、一生涯を貫く仕事をもつことです。
 - ・世の中で一番始めなことは、教養のないことです。
 - ・世の中で一番寂しいことは、仕事のないことです。
 - ・世の中で一番醜いことは、他人の生活を羨むことです。
 - ・世の中で一番尊いことは、人のために奉仕して恩に着せぬことです。
 - ・世の中で一番美しいことは、全てのものに愛情を持つことです。
 - ・世の中で一番悲しいことは、うそをつくことです。
- 少しでもこの理想に近づくことができるよう、日々邁進していきたいと思えます。こ
れからは私たちが日本を創り上げていく時代です。社会の礎となるよう、更なる飛躍を
しましょう。

(意見発表は要約掲載)

